

# 体育科の指導内容全体に内在させる基礎・ 基本的なことのとらえ方、在り方

広橋 義敬<sup>1</sup>、金原 勇<sup>2</sup>、斉藤 富美枝<sup>3</sup>、田島 行夫<sup>1</sup>、島崎 旺<sup>1</sup>、高山 弘<sup>4</sup>

<sup>1</sup>千葉大学教育学部、<sup>2</sup>武蔵野体育研究所、<sup>3</sup>千葉市立生浜中学校、<sup>4</sup>敬愛大学

A study of understanding and being of the basic and the  
foundation included in the whole of the teaching  
substance in physical education

Gikei HIROHASHI , Isamu KINPARA , Fumie SAITOU ,

Yukio TAJIMA Sakari SHIMAZAKI and Hiroshi TAKAYAMA

## 1. 研究目的

われわれは、これまで長年にわたって真に幸福に生きるために欠くことのできない体育を、発想の飛躍的転換を意図的に図りながら理論的・実践的に追求してきた。その上にたって、体育諸目標を達成するのに効果的な指導内容の精選・開発などに役立つ根本的なこと、換言すると、基礎・基本的なことを明らかにする必要があるという結論に達した。一方、われわれは、人間が生涯にわたって幸福に生きるのに欠くことのできないような役割を果たすことのできる体育運動を年代、人間としての望ましい生き方などに即して体系的に確立していくことは、体育学における最も重要な永遠の基本的研究課題の一つになっているべきであると考えている。したがって、この面からしても、体育運動（広義での体育的スポーツ）の精選・改善・開発などに役立つ基礎・基本的なことを体系的に確立しておくことが重要な課題になると考えている。

本研究の目的は第1には、体育科における指導

内容の全体の中に意図的に内在させる基礎的なこと、基本的なこと、基礎・基本的なことなどのとらえ方・あり方を究明すること。第2には、体育科における体育運動の全体に内在させる基礎・基本的なことのとらえ方・あり方、そのようなとらえ方・あり方に即する方向での基礎・基本的動きの体系化などを究明することにある。

## 2. 研究法

第1に、われわれは体育のあり方を考える原点を個人的・社会的にみて望ましい「平和な生き方」「生きがいのある生き方」とにおき、体育を「主に全ての身体的なことを通して、個人的・社会的にみて望ましい生き方のできる人間の身体的精神的育成を意図的に図る、生活全体を一面的に設計・統御する現象」としてとらえている。ここでは、人間の生活・生存に欠くことのできない役割を果たすことのできる指導内容に内在させる基礎・基本的なことを、次に示す研究方法によって探っていくことにした。

(1) 基本と基礎という用語の使い方を区別するために、辞典、科学文献、日常会話などにおける使い方の傾向を探る。

(2) 体育科の指導内容の全体に内在させる基礎・基本的なことのとらえ方・あり方をこれまでの研究によって得た「体育のとらえ方・あり方」を原点にした演繹的考察によって探る。

第2に、体育運動に内在させる基礎・基本的なことを次に示すような理論的考察によって探っていくことにした。

(1) 先立つ研究によって得た基礎・基本という

### 3. 研究結果と考察

(1) 基礎・基本的なことのとらえ方

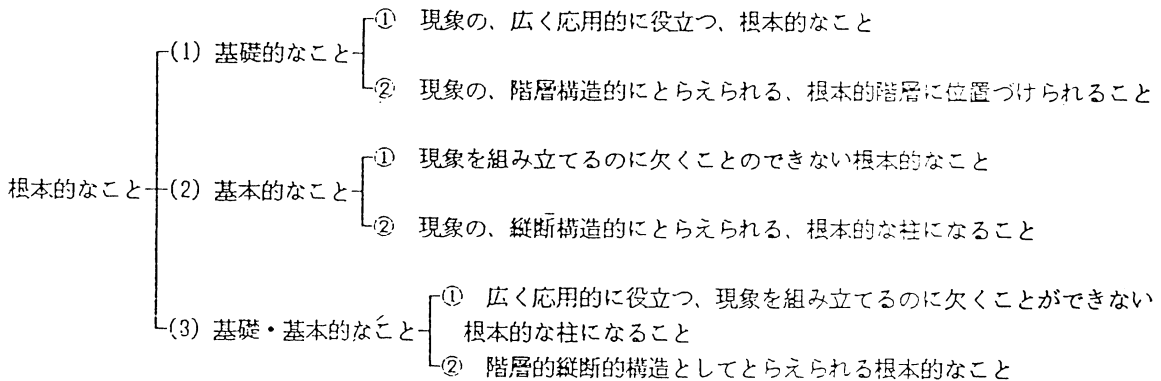
基礎及び基本という用語の使い方は、辞典、科学的文献、日常会話などからみて、必ずしも明確には区別されていない。したがって、使い方に見られる諸傾向に着目して両者を明確に区別すると、基礎的なことは表1に示すように「現象の、広く応用に役立つ、根本的なこと」、換言すると「現象の、階層構造的にとらえられる、根本的階層に位置づけられること」としてとらえられる。基本

用語の使い方、指導内容の全体に内在させる基礎・基本的なことのとらえ方・あり方、体育運動の全体に内在させる基礎・基本的なことのとらえ方・あり方などに関する知見をもとにして、体育運動の全体に内在させる基礎・基本的なことを主に演繹的考察によって探る。

(2) 体育運動に内在させる基礎・基本的なことの中でも、その中核となる基礎・基本的動きのとらえ方・あり方を主に演繹的考察によって探る。

的なことは「ある現象を組み立てるのに欠くことのできない根本的なこと」、換言すると「現象の、縦断構造的にとらえられる、根本的な柱になること」としてとらえられる。したがって、基礎・基本的なことは「ある現象における、広く応用的に役立つ、現象を組み立てるのに欠くことのできない根本的な柱になること」、換言すると「現象の階層的縦断的構造としてとらえられる根本的なこと」としてとらえられる。

表1 基礎・基本的なことのとらえ方



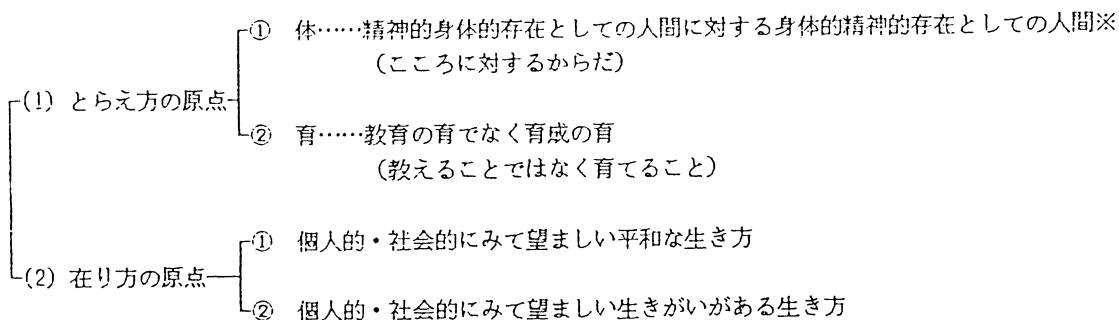
(2) 体育科における指導内容の全体に内在させる基礎・基本的なことのとらえ方・あり方

① 体育のとらえ方・あり方について  
われわれは体育のあり方を考える原点を個人的・

社会的にみて望ましい平和な生きがいのある生き方に求めている。したがって、なによりもまずそのような方向での体育及び体育科のとらえ方・あり方について考察する必要がある。表2はわれわれ

れの体育のとらえ方・あり方を考える原点を示したものになっている。

表2 体育のとらえ方・在り方を考える原点



※身体と精神との区別は操作的に行う。

とらえ方の原点として、「体は精神的身体的存在としての人間に対する身体的精神的存在としての人間」いわゆる「こころに対するからだ」として、「育は教育ではなく育成の育」いわゆる「教えるのではなく育てること」としてとらえられることを示し、あり方の原点としては、「個人的・社会的にみて望ましい平和な生き方」と「個人的・社会的にみて望ましい生きがいのある生き方」をあげることができる。また、このような体育のとらえ方・あり方の原点に立つと、体育に対応する現象として心育をあげることができよう。

しかも体育と心育は人間の生き方の司令塔的役割を果たすことのできるものであり、体育は「主に全ての身体的なことを通して、個人的・社会的にみて望ましい生き方のできる人間の身体的精神的育成を意図的に図る、生活全体を一面的に設計・統御する現象」であり、心育は「主に全ての精神的なことを通して、個人的・社会的にみて望ましい生き方のできる人間の精神的身体的育成を図る、生活全体を一面的に設計・統御する現象」であると定義できるものである。このような定義をまとめたものが表3である。

表3 体育・心育のとらえ方\*

|     | 体 育 の と ら え 方                    | 心 育 の と ら え 方                    |
|-----|----------------------------------|----------------------------------|
| 目 的 | 個人的・社会的にみて望ましい生き方のできる人間の身体的精神的育成 | 個人的・社会的にみて望ましい生き方のできる人間の精神的身体的育成 |
| 手 段 | 主に身体的なことの全て                      | 主に精神的なことの全て                      |
| 現 象 | 生活全体にわたる主に身体面からの設計・統御現象          | 生活全体にわたる主に精神面からの設計・統御現象          |

※ 体育（心育）は、主に全ての身体的なこと（精神的なこと）を通して、個人的・社会的にみて望ましい生き方のできる人間の身体的精神的育成（精神的身体的育成）を意図的に図る、生活全体を一面的に設計・統御する現象である。

一方、そのような体育現象及び心育現象を実践的な視点からとらえ示そうとしたものが表4、表5である。表4は、体育現象を実践的にとらえ示したのものになっている。体育現象は大きく体育手

段と体育生活に区分できる。また、体育手段は身体運動としての体育運動（体育的スポーツ）、体育化も図られた生活運動、そして精神活動にも含まれている体育化も図られた身体運動及び体育的

保健手段としても位置づけられる環境負荷としての自然環境負荷、人工環境負荷、さらに身体への影響に着目して体育手段としても位置づけられる体育化も図られた精神活動、また体育的保健手段

としての栄養のとり方、休養のとり方、衛生の図り方などに区分できる。体育生活は、1日の体育生活の行い方、1週の体育生活の行い方、年間の体育生活の行い方に区分できる。

表4 体育現象の実践的なとらえ方

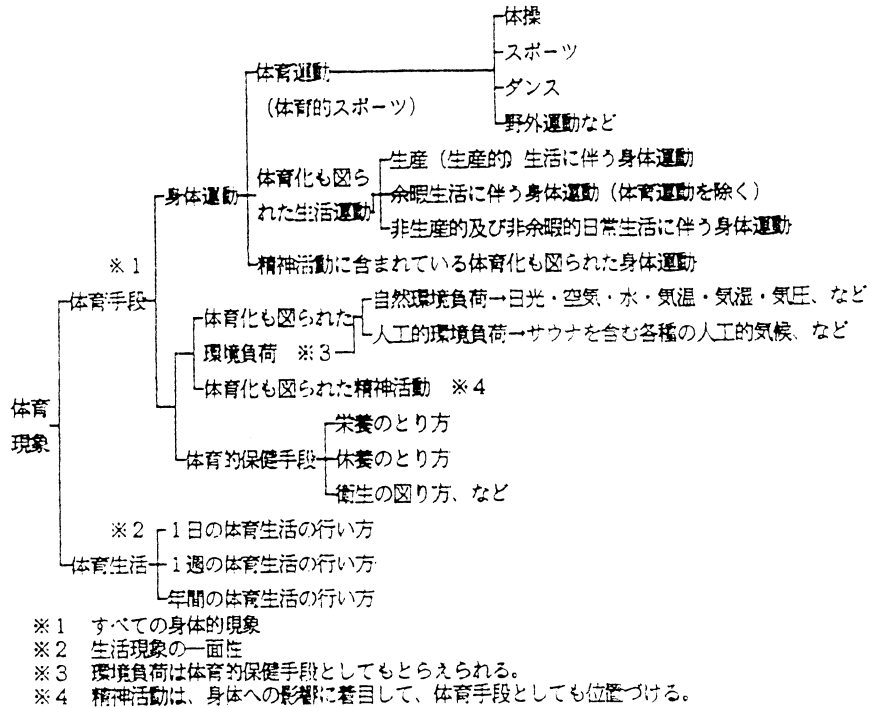


表5 心育現象の実践的なとらえ方

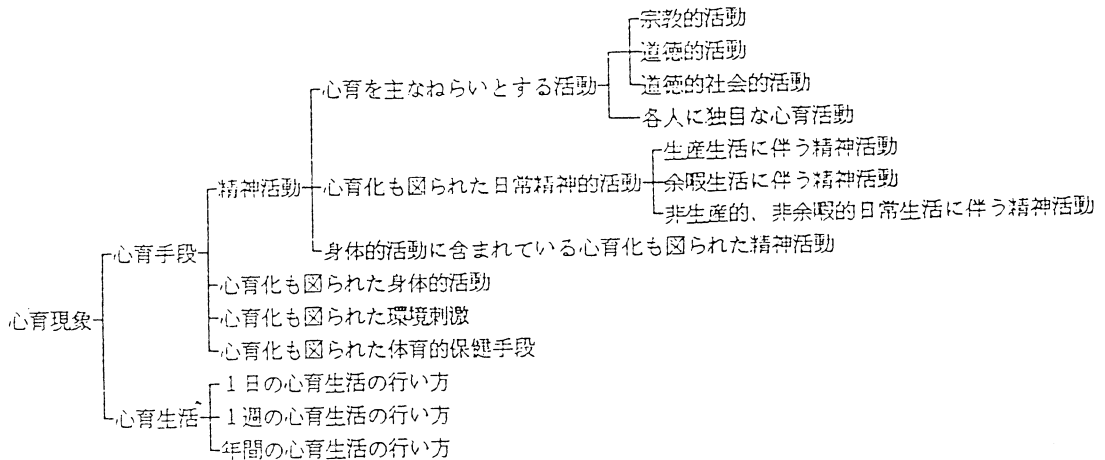


表5は、心育現象を実践的にとらえ示したものになっている。心育現象も体育現象と同様に手段と生活に大別してとらえられる。心育手段は、精神活動としての心育を主なねらいとする活動、心育化も図られた日常精神的活動、身体的活動に含まれている心育化も図られた精神活動などの一群と、心育化も図られた身体的活動、そして心育化も図られた環境刺激、心育化も図られた体育的保健手段をあげることができる。心育生活は、1日の心育生活の行い方、1週の心育生活の行い方、

年間の心育生活の行い方に区別できる。

② 体育科・体育科教育のあり方について

われわれは体育科の指導内容全体に内在させる基礎・基本的なことのとらえ方・あり方を究明する場合は、先立つ研究として、体育科・体育科教育のあり方を究明する必要があると考え、教科の特性、指導目標、指導内容、指導法などについて究明した。表6は、われわれの究明した体育科・体育科教育のあり方を示したものになっている。

表6 体育科・体育科教育の在り方

|              |   |
|--------------|---|
| 1. 教科特性に着目して | ① 一般教科と区別した生活教科（生活指導の重要な場）の一つとして位置づける。                        |
|              | ② 学校体育指導の中核的な場として位置づける。                                       |
|              | ※   |
| 2. 指導目標に着目して | ③ 学習成績の評定には実践的学力を重視する。  |
|              | ① 体育の学習・実践を通して身体的精神的人間形成を図らせる。                                |
|              | ② 平和な生きがいがある、めざす生き方に即した体育生活を図らせる。                             |
| 3. 指導内容に着目して | ③ 体育に関する実践学力を高めさせる。   |
|              | ① 各種体育運動の効果的な行い方及び生活化を取り上げる。                                  |
|              | ② 各種生活運動の体育化を取り上げる。   |
|              | ③ 各種体育的保健の生活化を取り上げる。  |
| 4. 指導法に着目して  | ④ 生活全体の体育化（生活全体の身体面からの設計・統御の行い方）を取り上げる。                       |
|              | ① 授業時間内において体育諸目標が効果的に達成されるような実践が行われるように指導する。                  |
|              | ② 体育に関する実践的学力が計画的に高められるように指導する。                               |
|              | ③ 児童・生徒の特性に即した理想的な生き方の一面性になるような体育生活を絶えず図らせるように指導する。           |
|              | ④ 指導には知育的方法、情育的方法、意育（行育）的方法などを用いて学習意欲を高めさせ、効果的な実践をさせるように指導する。 |

※ 実践的学力には体育実践に関する知識・理解と創造性、実践への態度、実践の習慣などが含まれる。

ア. 教科特性に着目して

体育科の教科特性は大別して、次の3つの視点からそのあり方を示すことができる。その1つは、一般教科（国語、社会、理科、数学、など）と区別した生活教科（生活指導の重要な場）の一つとして位置づけることが望ましい。2つには、学校体育指導の中核的な場として位置づけること。3つには、学習成績の評定には実践的学力（体育に関する知識・理解と創造性、実践への態度、実践習慣、など）を重視しなければならないことがあげられる。

イ. 指導目標に着目して

体育科の指導目標は大別して、次の3つの視点からそのあり方をとらえることができる。その1つは、体育の学習実践を通して身体的精神的人間形成を図らせることがその中核に位置づけられなければならない。特に、生涯体育が標榜されている今日、これが具現化されるためには、身体的精神的人間形成を図ることが最も重要課題になる。2つには、平和な生きがいのある、めざす生き方に即した体育生活を図らせることがあげられる。3つには、体育に関する実践的学力の向上があげられる。

ウ. 指導内容に着目して

上述した教科特性及び指導目標を達成させるための指導内容は大別して、次の4つの視点からそのあり方をとらえることができる。1つには、各種体育運動の効果的な行い方及びその生活化を取り上げる必要がある。2つには、各種生活運動の体育化を取り上げる必要がある。3つには、各種体育的保健の生活化を取り上げる必要がある。4つには、生活全体の体育化、換言すれば生活全体の身体面からの設計・統御の行い方を取り上げる必要がある。

エ. 指導法に着目して

上述した教科特性、指導目標、指導内容に基づく指導法は大別して、次の4つの視点からとらえておくことが有効である。1つには、毎時間の授業の中で体育諸目標が効果的に達成できるような実践が行われるように指導をする必要のあることがあげられる。2つには、体育に関する実践的学

力が計画的に高められるように指導する必要がある。3つには、児童・生徒の特性に即した理想的な生き方の一面性になるような体育生活を絶えず図らせるように指導することがあげられる。4つには、指導には知育的方法、情育的方法、意育(行育)的方法などを用いて学習意欲を高めさせ、効果的な実践をさせるように指導することがあげられる。

(3) 体育科における指導内容に内在させる基礎・基本的なことについて

① 指導内容に内在させる基礎・基本的なことについて

表7は、体育の指導内容に内在させる基礎・基本的なことの全体としてのあり方をまとめて示そうとしたものになっている。この表は形式的構造的には、次のような視点からまとめたものになっている。

ア. 体育に内在させる根本的なことを基礎

表7 体育の指導内容に内在させる基礎・基本的なことの在り方

| 階 層 段 階               | 階 層 段 階 に 即 し た 基 本 的 柱   |
|-----------------------|---|
| 定 規 的 研 究 的 実 践 的 階 層 | <ul style="list-style-type: none"> <li>① 諸基本的価値の追求・実現が、<b>体育</b>によって図られている生活</li> <li>② 諸基本的価値の追求・実現能力の<b>体育</b>による開発</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 平和な生きがいのある生き方が<b>体育</b>によって図られている生活</li> <li>② 平和な生きがいのある生き方のできる能力の<b>体育</b>による開発</li> </ul>  |
| 階 層 直 接 的 実 践 的 階 層   | <ul style="list-style-type: none"> <li>① 一般 <b>体育</b></li> <li>② 障害者 <b>体育</b></li> <li>③ 特殊 <b>体育</b></li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 発育期 <b>体育</b></li> <li>② 生産年齢期 <b>体育</b></li> <li>③ 高齢期 <b>体育</b></li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 諸体育的 <b>手段</b> の行い方、それぞれの生活への取り入れ方(各種 <b>体育手段</b>)</li> <li>② 諸<b>体育手段</b> の全体としての生活への取り入れ方( <b>体育生活</b>)</li> </ul>   |
| 基 礎 的 階 層             | <ul style="list-style-type: none"> <li>① 発育期基礎・基本的なこと</li> <li>② 生産年齢期基礎・基本的なこと</li> <li>③ 高齢期基礎・基本的なこと</li> <li>④ 障害者基礎・基本的なこと</li> <li>⑤ 特殊<b>障害者</b>基礎・基本的なこと</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 基礎・基本的な動き、動きづくりの行い方などに関すること</li> <li>② 体力の向上に役立つ運動負荷、体力づくりのすすめ方などに関すること</li> <li>③ <b>体育</b> によるレクリエーション及び積極的の休息に関すること</li> <li>④ <b>体育</b> による精神的人間育成(精神的能力、態度の育成)に関すること</li> <li>⑤ 災害の予防・克服能力の <b>体育</b> 的方法による開発に関すること</li> </ul> |

ア. 基礎的階層の右の系列に示した5つの基本的な柱は、主に体育目標とする諸基本的能力の開発に着目した立て方になっている。左の系列に示した5つの柱は、体育実践をする人の生活類型に即した立て方になっている。

イ. 直接的実践的階層の左の系列に示した2つの柱は、計画的体育実践に着目した立て方になっている。左の真ん中の系列に示した3つの柱は、体育実践をする人の類型に即した立て方になっている。

体育実践は諸体育運動、体育化も図られた諸生活運動、諸精神活動、栄養のとり方、休養のとり方、などの諸体育手段とそれらを用いて体育生活という形で、左の真ん中の系列に示した人の類型に即して行われていくことになる。

ウ. 究極的実践的階層の左の系列は、人間の追求・実現することの期待される価値に着目した体育目標を柱にした立て方になっている。右の系列は、

人間にとって望ましい生き方になるような生活に着目した体育目標を柱にした立て方になっている。

ここに示した2種類の柱は、いずれも直接的実践的階層における実践的内容を真に人間にとって望ましい方向に導くのに欠くことができない。換言すると、これらの柱は直接的実践的階層に位置づけられることの根本的実践的なあり方を示している。また、これらの柱は基礎的階層における基礎・基本的なことの根本的なあり方を示している。

表8は、表7において考察した方法によって体育の指導内容に内在させる基礎・基本的なことの全体としてのあり方をまとめて示したが、ここでは生涯スポーツが叫ばれている今日、真に人間の幸福な生き方に資するスポーツのあり方の究明も重要な課題になってくると考えられることから、表7と同様の視点から国民スポーツに内在させる基礎・基本的なことのとらえ方・あり方を示したものになっている。

表8 国民スポーツに内在させる基礎・基本的なことのとらえ方・在り方

| 階 層 段 階  | 階 層 段 階 に 即 し た 基 本 的 柱  |  |
|----------|--|--|
| 究極的実践的階層 | ① 諸基本的価値の追求・実現が国民スポーツによって図られている生活<br>② 諸基本的価値の追求・実現能力の国民スポーツによる開発      | ① 平和な生きがいのある生き方が国民スポーツによって図られている生活<br>② 平和な生きがいのある生き方のできる能力の国民スポーツによる開発  |
| 直接的実践的階層 | ① 一般国民スポーツ<br>② 障害者国民スポーツ<br>③ 共通国民スポーツ                                | ① 発育期国民スポーツ<br>② 生産年齢期国民スポーツ<br>③ 高齢期国民スポーツ<br>①諸体育的スポーツの行い方、それぞれの生活への取り入れ方(各種国民スポーツ)<br>②諸体育的スポーツの全体としての生活への取り入れ方(国民スポーツ生活)   |
| 基礎的階層    | ① 発育期基礎・基本的なこと<br>② 生産年齢期基礎・基本的なこと<br>③ 高齢期基礎・基本的なこと<br>④ 障害者基礎・基本的なこと | ① 基礎・基本的な動き、動きづくりの行い方などに関する事<br>② 体力の向上に役立つ運動負荷、体力づくりのすすめ方などに関する事<br>③ スポーツによるレクリエーション及び積極的休息に関する事<br>④ スポーツによる精神的人間育成(精神的能力、態度の育成)に関する事<br>⑤ 災害の予防・克服能力のスポーツの方法による開発に関する事 |

② 体育学の基礎・基本的な構造について

体育に内在させる基礎・基本的なことは、体育学における最も重要な研究課題の一群として、体育学の全体としての望ましい体系の中に位置づけて研究していくことが必要である。それは、この分野の研究成果は体育を目標に即する方向で発展させる、中核的な役割を果たし得るからである。

表9は、体育学の各専門諸領域が体育学の全体

の中でどのように位置づけられるかを示すために、体育学の基礎・基本的構造的なとらえ方を試みたものになっている。表中の実践的基礎的階層に位置づけられた「実践系基礎体育学」の諸領域では、表7における基礎的階層の左の系列に示した基礎・基本的な柱になっていることを専門領域として研究していく。これらの中で、今日確立されている領域には「体力学」があげられるのみである。

表9 体育学体系の基礎・基本的構造

| 階 層 段 階         |           | 階 層 段 階 に 即 した 基 本 的 柱            |   |
|-----------------|-----------|-----------------------------------|---|
| 学 際 的 応 用 的 階 層 | 実 践 的 階 層 | 実 践 体 育 学                         | ①-1 一般体育学<br>①-2 障害者体育学<br>②-1 競技者体育学<br>②-2 特殊職業体育学<br>③ 体育経営学<br>④ 体育教育学<br>⑤-1 体育運動学<br>⑤-2 体育的保健学 |
|                 | 実践的基礎的階層  | 実践系基礎体育学                          | ① 基礎体育運動技術学<br>② 体力学<br>③ 体育的レクリエーション学<br>④ 体育の人間形成学<br>⑤ 体育的災害予防学                                    |
|                 | 応用的基礎的階層  | 基礎体育学                             | ③ 自然系基礎体育学<br>④ 人文・社会系基礎体育学<br>① 体育哲学   |
| 基 礎 的 階 層       | 基 礎 科 学   | ② 自然系基礎科学<br>③ 人文・社会系基礎科学<br>① 哲学 |   |

※体育学の特性・・・①実践科学性(実用科学性)、②哲学的統合性(当為性)、③学際科学性(複合科学性)、④応用科学性

体育学の基礎的階層に位置づけられる諸基礎体育学における研究成果は、基礎科学の一面的な視点を中心になった知見であることが原因して、一般に実践内容に直ちに結びつかなくなっている。諸実践体育学ではそれぞれの独自の研究を行うのみでなく、諸基礎体育学にわたる研究成果を実践に役立つ方向で統合していくことが期待される。

③ 体育運動に内在させる基礎・基本的なことに着目した体育運動の創造について

体育指導の充実には、体育の目的・目標に即する方向で指導内容の重要な一部となる体育運動の整備充実があげられる。特に、現在の体育運動は体操を除けば体育目標を直接ねらいとする体育運動が存在しないことから、体育運動を体育運動に

内在させるべき基礎・基本的なことに着目して体系的に創造していくことが、体育学研究の永遠の課題になってくる。

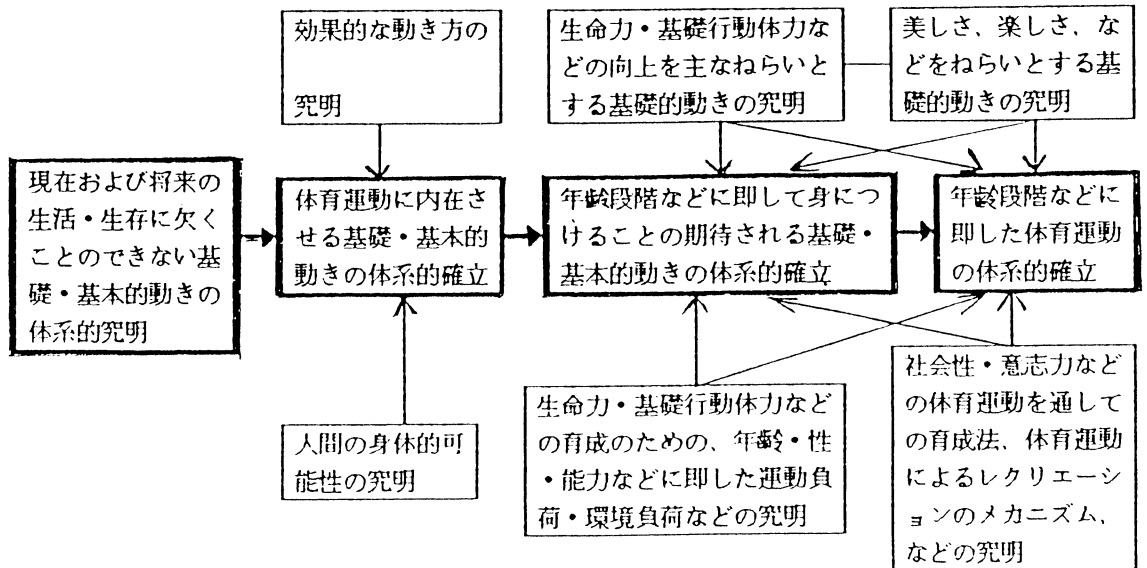
図1は、そのような方向に即する体育運動の体系創造のための研究チャートを示したものになっている。

ここでは、まず現在および将来の生活・生存に欠くことができない基礎・基本的動きを体系的に究明する。その上になつて、体育運動に内在させることが望ましいと考えられる基礎・基本的動きを効果的な動き方の究明及び人間の身体の可能性の究明の結果得られた研究成果を踏まえて、体系的に確立する。

次に、体育の実践は年齢段階によってその内容を



図1 体育運動に内在させる基礎・基本的なことに着目した  
体育運動の体系的創造のための研究チャート



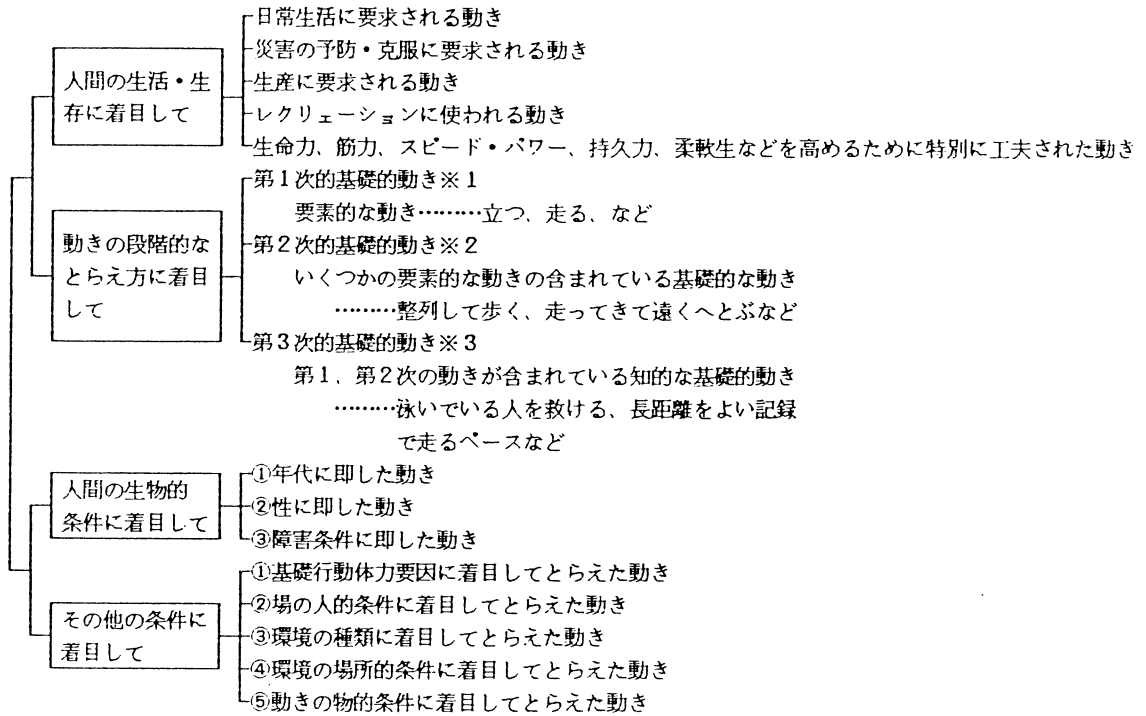
選択することが必須の条件になることから、生命力・基礎行動体力などの向上を主なねらいとする基礎的動きの究明及び生命力・基礎行動体力などの育成のための、年齢・性・能力などに即した運動負荷・環境負荷などの究明の研究成果を踏まえて、年齢段階などに即して身につけることの期待される基礎・基本的動きを体系的に確立する。その結果を踏まえ、年齢段階に即した体育運動を、美しさ、楽しさ、などをねらいとする基礎的動きの究明および社会性・意志力などの体育運動を通

しての育成法、体育運動によるレクリエーションのメカニズム、などの究明結果を踏まえた上で体系的に確立する必要がある。

(4) 人間の生活・生存に要求される基礎・基本的動きについて

人間の生活・生存に要求される基礎的動きについて、いままで究明してきた基礎・基本のとらえ方・あり方をもとにして体系的な確立を試みたのが表10である。

表10 人間の生活・生存に要求される基礎・基本的動きのとらえ方



※1、※2自動化することの望まれる動き

※3自動化することの望まれる動きの知恵

ここでは、人間の生活・生存に着目した場合の基礎的動きを日常生活に要求される動き、災害の予防・克服に要求される動き、生産に要求される動き、レクリエーションに使われる動き、生命力、筋力、スピード・パワー、持久力、柔軟性などを高めるために特別に工夫された動き、などの5類型でとらえることにした。また、それらの動きについて動きの段階的な視点からとらえてみることにした。立つ、走る、などの要素的な動きを第1次の基礎的動きとして位置づけ、いくつかの要素的な動きの含まれている基礎的な動きの例となる、整列して歩く、走ってきて遠くへ跳ぶ、などの動きを第2次の基礎的動きとして位置づけ、さらに、これら第1次、第2次の動きが含まれている知的な基礎的動きの例となる、泳いでいる人を助ける、長距離をよい記録で走るペースなどを第3次の基礎的動きとして位置づけてみた。

一方、人間はその生物としての諸条件のもとで生きなければならないことから、その視点からも動きをとらえておく必要がある。ここでは、年代に即した動き、性に即した動き、障害条件に即した動きをあげることができる。また、人間の生物的条件に着目した動きについても、それぞれについて基礎行動体力要因に着目してとらえた動き、場の人的条件に着目してとらえた動き、環境の場所的条件に着目してとらえた動き、動きの物的条件に着目してとらえた動き、などといったその他の条件に着目して基礎的動きをとらえておくことが具体的な動きの内容づくりに有効であると考えられる。

#### 4. 結論的示唆

この研究によって、体育に内在させる基礎・基本的なことのあり方に関連して、次のいくつかの示唆を引き出すことができよう。

① 真に人間の望ましい生活・生存に欠くことのできないような体育を確立するには、体育の実践的内容に内在させる基礎・基本的なことを体系的に究明する必要がある。

② 体育の実践内容に内在させる基礎・基本的なことは、3種類の体育目標の中の基本的能力の育成に着目して基本的な柱を立てる。また、望ましい生活、追求・実現が期待される価値などに着目した目標は、基礎・基本的なことの実践的根拠なあり方になることとして位置づけられる。

③ 体育に内在させる基礎・基本的なことを体系的に究明するために、体育学の専門領域の一群として「実践系基礎体育学」を確立する必要がある。

④ 人間の生活・生存に要求される基礎・基本的動きを、動きのとらえ方に即して体系的に究明し、指導内容として確立する必要がある。

#### 参 考 文 献

- 1) 金原 勇・広橋 義敬；生活・生存のための体育の基本的原理 体育原理研究、第15号
- 2) 金原 勇・広橋 義敬；大学における体育・スポーツの在り方 体育原理研究、第16号
- 3) 広橋 義敬・金原 勇；現代社会に果たし得る体育とスポーツの役割 体育原理研究、第16号
- 4) 金原 勇・広橋 義敬；体育を通しての知育・情育・意育（行育）などを考える 体育原理研究 第17号
- 5) 金原 勇・広橋 義敬；教育のあり方の体育を通しての追求 体育原理研究 第18号

(1990年12月1日受付)